

基本業務手順書の策定



資材センター 福田 尚樹

【これまでの背景】

現状

- 新入職員や人事異動者への指導方法は先輩職員と一緒に行動しながら覚えてもらう形

課題

- 教える先輩職員によって伝達内容が異なる
- 時間的負担が大きい

解決策

- 手順書の作成
 - ⇒基本業務の標準化、単独で作業可能
 - ⇒業務内容の再確認



【手順書の作成方法】

- ① 普段行っている業務の行動を
時系列順に箇条書きで作成する
- ② イレギュラーな行動部分は除外
→ 全てに共通するルーチン行動のみ
- ③ 略語や定義が曖昧な言葉は使用しない



4月より薬品の担当になった新入職員
に対して基本業務の説明時に使用した

【例】 医薬品の収納 手順書

資材センター 基本業務手順書 ー医薬品 収納ー

1.定義

納品された医薬品を所定の場所に収納すること。

2.医薬品の収納手順

□前提条件

- ・先入れ先出し（古い物を手前へ 新しい物を後ろへ）
- ・五十音順で収納する。



- ・内服薬：「内服薬」と記された棚に収納する。
- ・外用薬：「外用薬」と記された棚に収納する。
- ・注射薬：「注射薬」と記された棚に収納する。
- ・温度管理薬品：冷蔵庫の中に収納する。
- ・劇薬：赤いテープが貼ってある棚に収納する。

※劇薬は赤い囲いに囲まれた棚にしか収納してはならない。

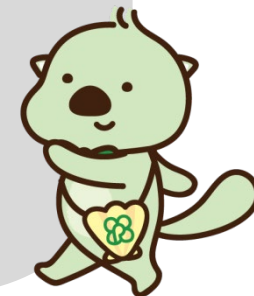
（薬機法にて定められているため、絶対に守ること）

- ・向精神薬 毒薬：①向精神薬と毒薬専用の鍵が付いた棚があるので、鍵を使って開け、収納する。
②収納し終わった後、鍵をかけ、戻す。

なお、向精神薬と毒薬は混合して収納せず、分けて収納すること。

※向精神薬と毒薬は、鍵付きの専用の棚にしか収納してはならない。

（麻薬及び向精神薬取締法にて定められているため、絶対に守ること）



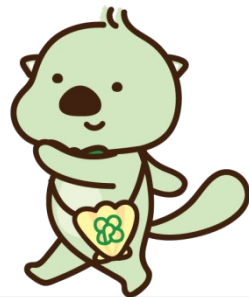
【例】医薬品の収納手順書

□前提条件

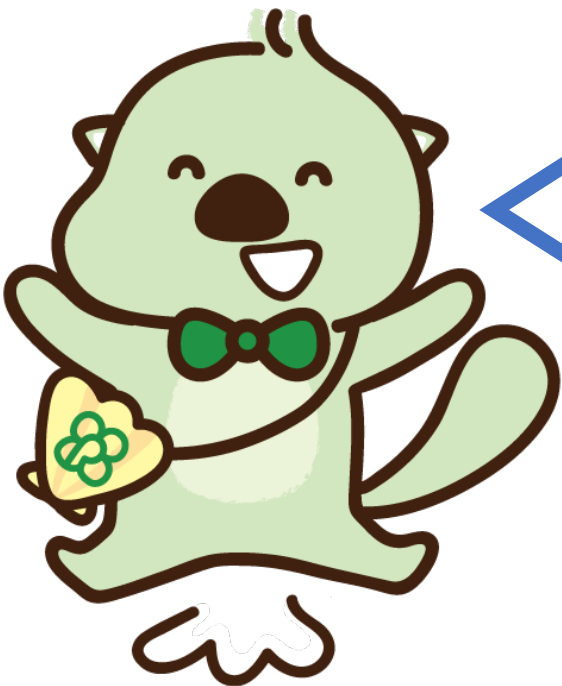
- ・先入れ先出し（古い物を手前へ 新しい物を後ろへ）
- ・五十音順で収納する



- ・内服薬：「内服薬」と記された棚に収納する
- ・外用薬：「外用薬」と記された棚に収納する
- ・注射薬：「注射薬」と記された棚に収納する
- ・温度管理薬品：倉庫内の冷蔵庫の中に収納する



【結果】



□ 新入職員

- ・ 作業前に見ることで手順が理解しやすかった。
- ・ 作業後の確認ができて良かった。

□ 指導者

- ・ 内容がまとめられているので教えやすい。
- ・ 以前より同じ内容の質問が減った。

【考察】

- ・一度作成すれば、業務内容の変更がない限り使用できる
- ・シンプルで分かりやすく、作業の理解に有効

不足

- ・状況によっては、業務内容、手順が変更する場合がある
- ・シンプルで分かりやすいが故に
『内容の詳細』『トラブル対応面』が不足している

追加

- ・半期に一度 内容の確認、見直しを行う
- ・必要に応じて、詳細なマニュアルを作成する



【結論】

有形効果

- ・ 人によって伝達内容が色々だったが、手順書により標準化した
- ・ 業務内容の見える化ができた

無形効果

- ・ 手順書の作成は、新入職員に対してだけでなく、職員全員の業務の見直しのきっかけになった



手順書により
資材センターの業務効率が上がった



手順書を作って
損は無い!

ご清聴ありがとうございました

